

★ 連 合 会 だ よ り ★

一年も早いもので今回のこの発見誌が皆さんのところに届くころは、もう12月という時期になっていることでしょう。朝夕の通勤時、コートを着用している姿も増えてきました。風邪などをひかないよう健康に気をつけて頑張りたいとおもいます。私事で恐縮ですが、私の次女が高校3年で来春大学受験です。本人も少しずつ緊張してきているようで、家の中もそれに比例して少々ピリピリしてきています。とにかく、結果はどうであれ全力で挑戦して欲しいと思います。

11月5日付・朝日新聞の社説で「世紀を築くー協同の思想」「経済の第三の担い手に」と題して、労働者協同組合に対する期待がとりあげられました。労働者協同組合とその法的保障の必要性にもふれながら、新しい経済社会を担う存在として協同組合の役割を評価し、私たちの20年余の実践を位置付け、今後の活動に注目する内容となっています。「『協同労働の協同組合』法制化をめざす市民会議」発足を目前にして、私たちに大きな励ましを与える主張となっています。

こうした中、先日労協連本部に、今年7月の沖縄サミットが開催された折、主会場となった名護市より市議団の皆さんが訪問されました。労働者協同組合と高齢者協同組合の調査・研修のため来られたものです。労協連本部及びセンター事業団が調理などの委託を受けている都立北療育センターなどの現場を訪問されました。名護市では、センター事業団と沖縄高齢協が協力して、この6月に高齢者などへの配食サービスを開始させています。この成果は、全国に影響を与えつつあります。私も、宮城県のいくつかの自治体をセンター事業団岩城理事長と回り、この経験を生かし

た配食サービスについて説明をしてきました。人間の生活にとって“食”は欠かせないものでありとても重要です。厚生省の制度活用も受けながら、今後この分野もますます充実・発展させていく必要があります。

11月中旬、兵庫県の尼崎へ行ってきました。尼崎都市美化推進企業組合が主催するホームヘルパー養成講座の特別講座でお話をさせていただきました。私が改めて驚いたのは、とにかく受講生の皆さんが大変元気だということです。尼崎は、全国の取り組みのテンポから少し遅れたかなと思っていましたが、3回の講座を通じて地域福祉事業所を開設し、利用者の多様な要望に応える事業として、移送サービスの事業もはじめています。この仕事も大変評判がいいということでした。受講生の元気なパワーがもっともっと私たち協同労働の協同組合＝ワーカーズコープに結集することができるならばさらなる展望が見えてくるでしょう。

さて、ここ数日は政局をめぐる大騒動がありました。森内閣不信任決議をめぐる自民党の内紛劇です。一方、国民生活は長期にわたる不況で本当に大変です。労協も厳しい経営状況にあり、維持・発展に悪戦苦闘しているのも率直な現状です。21世紀がもう目前までできています。新しい世紀を希望のもてる世紀とするため力を出しきって前進したいと思います。数日後に開催される協同集会もそのような集会として成功させたいと思います。次号では、そのような内容をお伝えする〈連合会だより〉としたいと思います。労働者協同組合の将来を見つめながら……。

富田 孝好（日本労協連事務局長）